

「医療機関における電波利用に関するセミナー」をオンラインで開催 《電波の有効活用と新たな通信技術がもたらす展望について専門家から説明》

四国総合通信局(局長:磯 寿生(いそ としお))は、令和3年11月26日(金)にオンラインにて「医療機関における電波利用に関するセミナー」を開催し、医療機関、医療関連企業、通信事業者のほか、電波の安全性に関心のある一般の方など約50名が参加しました。

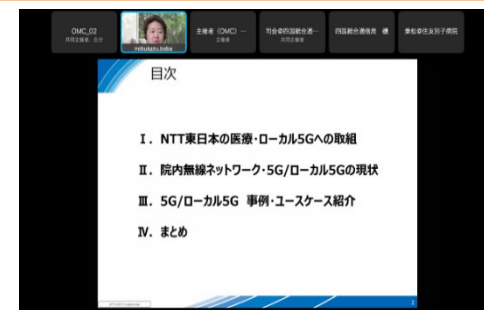
本セミナーでは、医療現場における環境整備の現状及び課題などの最新の情報や、来たる5G時代に向けた先進的な取組事例等をお二人の講師から紹介いただきました。なお、このセミナーはオンデマンド配信(令和3年12月13日～12月31日)を実施しました。

【講演1】

演題:院内の無線通信インフラの現状と今後の展望 ～院内ICT環境の現状と医療分野における5G等のユースケース～

講師:東日本電信電話株式会社ビジネスイノベーション本部 担当課長 馬場 延和(ばば のぶかず)氏

講演では、はじめに、NTT東日本の医療・ローカル5Gへの取組として、ロボットを活用した遠隔手術、次世代の医療ICTに向けたローカル5Gの活用等に関する国の実証事業への実施概要や、院内無線ネットワークの現状として、院内PHSの利用が多いこと、ローカル5Gは対象者の半数近くの施設が興味を持っていること、無線ネットワークへのニーズとして、安定性、信頼性の高い無線ネットワークがあることなどを同社が実施した調査結果として紹介がありました。つぎに医療分野において取組が進む、5G/ローカル5Gを活用した実証として5G/ローカル5G事例・ユースケースの紹介があり、遠隔診療、専門医の遠隔サポートなどを愛知県新城市、長崎県五島市、滋賀県高島市の3事例について地域課題・解決へのアプローチ・実証内容や課題などを切り口にした説明や、ローカル5G実装における留意点なども説明をいただき、医療分野におけるローカル5Gの取組事例などの共有をはじめ、今後の可能性や課題について理解を深めることができました。

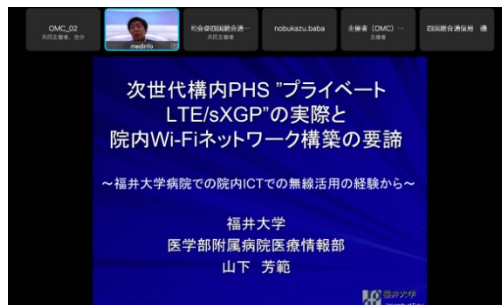


オンライン表示画面(馬場講師)

【講演2】

演題:次世代構内PHS“プライベートLTE/sXGP”の実際と院内Wi-Fiネットワーク構築の要諦 ～福井大学病院での院内ICTでの無線活用の経験から～

講師:福井大学 医学部附属病院 医療情報部 副部長・准教授 山下 芳範(やました よしのり)氏



オンライン表示画面(山下講師)

講演では、福井大学病院で進められる院内ICTと無線活用の経験を通して、まずは、公衆サービスの終了や旧スプリアス規格の更改時期が迫る院内PHSからの転換をテーマに、次世代の情報通信機器として期待されるsXGP(プライベートLTE)に関する運用試験の様子や業務の効率化などのメリットや安定的な通信確保などの課題について説明がありました。つぎに、院内におけるデータのクラウド化やIoT化の推進では、看護師の残業の大幅な減少など働き方改革にもつながっているが、院内Wi-FiやBluetooth等を利用する機器の増加に対応して院内の電波管理が必須であることと、建物内でのWi-Fiの設置設計やチャンネル管理や可視化の方法などの説明がありました。さらに、取組のポイントとして、無線・ネットワークの重要性の理解を得ながら、院内の関係部署と連携して取り組むことの説明をいただき、医療機関における安心、安全な電波利用に関する実践的な取組手法と方向性について理解を深めることができました。

参加者からは「病院における電波利用の現状について参考になった。」「遠隔医療の成功事例があるとありがたいです。」などの感想が寄せられました。四国総合通信局では、引き続き医療機関における電・セミナー・イベントなどの実施報告波利用の環境整備に関して周知・啓発活動を行ってまいります。本セミナーは、セミナーの様子を後日、視聴いただけるオンデマンド配信(令和3年12月13日～12月31日)を実施しました。「ホスピタルエンジニア認定制度」、「臨床ME専門認定士制度」、「MDIC(医療機器情報コミュニケーション)認定制度」の認定講習のポイント対象です。

【主催等】

主催:総務省四国総合通信局 共催:四国の医療機関における電波利用推進協議会
後援:一般社団法人日本生体医工学学会中国四国支部、一般社団法人日本医療情報学会中国四国支部

【お問合せ先】

四国総合通信局 電波監理部 電波利用環境課 089-936-5055